

さいたま市長定例記者会見

令和5年5月18日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行        それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

                  それでは、記者クラブ幹事社の東京新聞さん、進行よろしく願いいたします。

○ 東京新聞        5月の幹事社を務めます東京新聞と申します。よろしくお願いいたします。

                  それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いします。

○ 市 長        皆さん、こんにちは。

                  さいたま市の魅力が詰まったテレ玉の番組といえば「のびのびシティさいたま市」、4月から番組がリニューアルされ、レポーターが「たんぽぽ」のお二人と根本玲奈さんになりました。女性3人のほのぼのとしたトークが話題になっておりますので、日曜日の朝の放送を楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。

                  次回21日の番組では「うなぎ」を特集いたします。「協同組合浦和のうなぎを育てる会」代表理事の大森好治さんにご出演いただき、うなぎの歴史や思いを語っていただいたほか、たれを活かした「うらわぐる」なども紹介しておりますので、ぜひ御覧いただきたいと思えます。

                  さて、「うなぎ」といえば、27日（土曜日）、4年振りに市役所を会場にして「さいたま市浦和うなぎまつり」を開催いたします。毎回大好評のうなぎ弁当を販売するほか、調理の実演がありますので、香ばしい匂いとともに、職人の皆様の見事な手さばきを間近で御覧になっていただけることと思えます。

                  また、市内からたくさんの店舗がブースを出すほか、うなぎ交流都市でもあります浜松や古河からもブースが登場する予定です。夏本番になる前の過ごしやすい季節ですので、たくさんの皆様にお越しいただきたいと思えます。

                  それでは、議題に入ります。

## 市長発表：議題1「令和5年度ランニングイベントについて」

まず、議題1「令和5年度ランニングイベントについて」お知らせします。

本市は、「健康で活力ある『スポーツのまち さいたま』」を将来像として掲げ、様々なスポーツ施策を実施しています。施策の成果指標の一つとして定めている「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は、平成15年度、政令指定都市になった年ですが、28.5%だったものがこの20年間で2.5倍も増加し、令和3年度には70.6%、令和4年には69.9%となっております。目標としている70%に達し、着実に施策の成果が表れていると感じています。

こちらの市民の実施するスポーツの種目のアンケート結果を御覧ください。平成27年と令和2年の比較を見ると、ウォーキングやサイクリング、ランニングをする人が大きく増えています。このように生活に身近で、気軽に始められるスポーツをする人が増えていることがスポーツ実施率の向上にも寄与していると考えています。

ランニングは、これまでもランニングイベントの開催を通じて、スポーツを始めるきっかけや実施する機会を提供し、市民の皆様の健康増進を図っているところです。

現在、令和5年度ランニングイベントについて、様々な種目を設定し、子供から大人、初心者から上級者まで、多くの方にご参加いただける大会となるよう準備を進めているところです。本日は、大会の一部種目について発表します。

政令指定都市移行・区制施行20周年を契機としまして、令和5年度のランニングイベントでフルマラソンを実施します。さいたま市でフルマラソンを実施するのは、2019年に行われた第5回さいたま国際マラソン以来4年ぶりとなります。

フルマラソンの開催概要について説明します。開催日時は、2024年2月12日、月曜日、休日です。

スタートとフィニッシュは、さいたまスーパーアリーナです。コースは、現在第5回さいたま国際マラソンのコースをベースに関係各所との協議、

調整を進めており、日本陸上競技連盟の公認取得を目指していきたくと考えています。

国際マラソンのコースは、2019年の第5回国際マラソン優勝者がその後の東京オリンピックでも優勝したという実績があります。そのような実績や経験をレガシーとし、これからの大会に活かしていきます。

参加料は、より多くの皆様に参加いただけるよう、さいたま国際マラソンの参加料を据え置く形で1万5,000円程度を考えています。エントリーは、7月中旬から開始できるように準備を進めています。

さいたま市で開催するフルマラソンは、スタート、フィニッシュ地点となるメイン会場が国内最大級の多目的アリーナ、さいたまスーパーアリーナであることが最大の特徴と言えます。最寄り駅のさいたま新都心駅から徒歩3分と交通の利便性が抜群で、また天候に左右されない屋内での着替えや荷物保管ができることなど、日帰りでも参加しやすく、本市の強みや特徴を最大限に活かした大会になると考えています。

さいたま市でのフルマラソン開催は実に4年ぶりとなります。走る楽しさを体感してもらうことはもちろん、フルマラソンに挑戦するランナーを応援する大会としていきます。

大会の詳細は今後の発表となりますが、市民をはじめ、全国のランナーに満足いただく大会としたいと考えておりますので、ぜひ多くの方に参加いただきたいと思います。

また、ランニングイベント全体の概要案については、フルマラソン以外にも、ご家族、友人などと一緒に参加いただける競技種目を設定予定です。

また、本市のスポーツ資源を活用し、マラソン以外のスポーツ種目の体験ができる場や飲食を楽しむことができる場を提供してまいります。

これまでのランフェスで実施したランナーサービスなど、ランナーサポートを充実させ、マラソン上級者だけでなく、初心者や子どもから大人まで、様々な人々に楽しんでいただけるランニングイベントとなるよう計画しています。

ランニングイベント全体の詳細の発表は、6月の下旬を予定しています。

**市長発表：議題2「脱炭素社会の実現に向けたオンラインフォームを開催します」**

続きまして、議題2「脱炭素社会の実現に向けたオンラインフォーラムを開催します」について説明します。

明日、5月19日、自治体向けに脱炭素社会の実現に向けた国内施策の最新動向や脱炭素先行地域取組事例を紹介するオンラインフォーラムをZoomを用いて開催しますので、紹介します。

本オンラインフォーラムは、東京電力ホールディングス株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社との公民連携を基に、環境省関東地方環境事務所の後援を受けて、主催するものです。

プログラムとしては4部構成です。第1部は、脱炭素社会実現に向けた国の方針や施策について、環境省の白石隆夫様にお話いただきます。

第2部は、脱炭素先行地域に初めて選定されたさいたま市のこれまでの取組事例について、私から説明させていただきます。

第3部は、東京電力グループの脱炭素まちづくりの事業について、東京電力ホールディングス社の長崎桃子様とさいたま市と脱炭素先行地域において共同提案者となっている東京電力パワーグリッド社の河野誠様にお話いただきます。

第4部は、芝浦工業大学の副学長磐田朋子教授がファシリテーターとなり、登壇者全員でパネルディスカッションを行います。

今後の脱炭素施策、展望を議題として、過去の事例を踏まえて、これからの取組などについて話をしていきます。

オンラインフォーラムが開催する前日ではありますが、参加される場合はメールで申し込みください。参加料は無料です。本オンラインフォーラムに参加予定の約300の自治体の皆様の環境施策検討にお役立ていただけるものと期待しています。

最後に、さいたま市の今後の脱炭素社会の実現に向けた取組について説明をします。さいたま市は、令和4年4月に環境省より脱炭素先行地域へ選定され、ゼロカーボンシティの実現に向けて各種取組を進めています。

そうした中、本年4月に、さいたま市の事業計画が重点対策加速化事業に選定されました。重点対策加速化事業とは、再エネ発電設備等を導入する計画を加速的に実施する地方公共団体に対して、環境省が支援を行っているものです。本市では、公共施設への太陽光発電設備等の導入や、民間

事業者への太陽光発電設備等の導入などに対する補助等を行っていく予定です。

今後は、脱炭素先行地域の事業に加えて、重点対策加速化事業も行うことで、脱炭素化と経済成長の同時達成に向けた取組を加速化させ、市域全体でのグリーントランスフォーメーションを推進してまいります。

### 市長発表：議題3「政令指定都市移行・区政施行20周年ばらまつり2023を開催します」

次に、議題3「政令指定都市移行・区制施行20周年ばらまつり2023を開催します」について説明します。

ばらまつりは、明治10年に開園した140年以上の歴史がある与野公園のバラの開花時期に合わせて開催しています。今年で42回目の開催になります。新型コロナが流行する前には毎年延べ16万人もの方にお越しいただいたイベントです。

それでは、今年の開催概要からお知らせします。日時は、今週末の5月20日（土曜日）、21日（日曜日）、9時から17時です。会場は、中央区の与野公園です。ばらまつり実行委員会の主催で開催されます。

イベント内容は、バラの苗木即売会やガイドツアー、ステージイベントの実施のほか、アメリカンフラワー手作り教室が開講されます。また、模擬店、展示会、バザー、物品販売等も併せて実施されます。

今年は、4年ぶりにステージプログラムを実施します。ステージは中央広場と南側広場の2か所、各ステージのプログラムはご覧のとおりです。歌唱、踊り、舞踊、和太鼓演奏等が行われる予定です。中央広場ステージでは、さいたま観光大使のPOP'Nさん、また吉武大地さんも出演する予定です。多彩なステージプログラムをぜひお楽しみいただきたいと思います。

また、ステージのほかにもお楽しみいただけるイベントをご紹介します。スライドの左側、「は～とふるローズ制作体験」では、アメリカンフラワーの制作を100円で体験できます。アメリカンフラワーは、40年以上前にアメリカで誕生したワイヤーとディップ液を使用したアートフラワーのことです。主催は、アメリカンフラワー実行委員会で、20日、21日の両日とも、8回ずつの体験会があります。定員は各回50名となっています。

す。

次に、右側、バラ園ガイドツアーです。中央区バラサポーターの方々がバラ園をガイドつきで案内するものです。約200種あるバラそれぞれの特徴や産地の情報等を教えてくださいと聞いています。ぜひこちらもお楽しみください。

また、ばらまつりの前夜には、「キャンドルアートナイト」が開催をされます。日時は、5月19日金曜日の18時30分から20時30分まで、会場はばらまつりの会場となる与野公園内のバラ園の園路で行います。主催は、バラのまち中央区アートフェスタ実行委員会です。中央区内の小学生が描いたシェードなどをまとったキャンドルを設置し、多くの方々にその雰囲気を楽しんでいただけるイベントとなっています。キャンドルがともる幻想的な空間の中で、与野公園のバラをお楽しみください。

先週、5月13日の土曜日には、中央区コミュニティ協議会や区民の皆様と一緒に私も「与野公園清掃」を行いました。ばらまつりに来場される皆さんに気持ちよくバラを鑑賞してもらえるよう準備しました。

4年ぶりの実施となるイベントも数多くあります。市内外から多くの皆様にお越しいただき、中央区の花であるバラを存分に楽しんでいただきたいと思います。

私からの説明は以上です。

## 議題に関する質問

### ○ 東京新聞

ありがとうございました。

市長からの説明について、マイクを使用して質問をお願いします。

私から最初に、ランニングイベントについて3点ほど質問あります。まず、今までフルマラソンは12月に、国際マラソン時代やっていたと思いますが、比較的いろんな大会がある2月に今回選定された主な理由というのはどういったことなのでしょうか。

あと、未定かもしれないですが、大体過去の国際マラソンと違って何万人規模ぐらいの大会を想定されているのでしょうか。

あと、これも調整中ということですが、コース変更の可能性。というのは、国際マラソン時代、コースについて若干タイムが出にくいですとか、いろんな議論があった中で終わってしまった部分もあったと思います。そ

の辺を含めて調整、要するに可能性というのはいかがなんでしょうかという、その3点をお願いします。

- 市長           それでは、ご質問にお答えします。  
                  まず、なぜこの時期にということについてですが、多くの方々にご参加  
                  いただきたいという思いから、関東近県の他のマラソン大会の日程を調べ、  
                  重複しないように2月12日（休日）に開催することとさせていただきます  
                  した。  
                  また、規模とコースについては、担当からお答えさせていただきたいと  
                  思います。
- 事務局           規模については、2019年に行っていましたさいたま国際マラソンの  
                  参加人数をベースに同程度の規模を目指して検討していきたいと考えてい  
                  ます。
- 東京新聞        同じ規模ってちなみに何万人といったところですか。
- 事務局           2019年に2万人前後の規模で開催しましたので、そこをベースに検  
                  討していきたいと考えています。
- 東京新聞        コース変更の可能性というのは。
- 事務局           コース変更についても、さいたま国際マラソンのコースをベースに関係  
                  機関と調整中で、同じコースでおおむねご理解が得られたところです。詳  
                  細については、今後細かい部分の調整になりますが、若干の修正の可能性  
                  ありますが、基本的なコースのレイアウトとしては同じコースで考えてお  
                  ります。
- 東京新聞        あと、お約束の質問ですが、ランニングイベントは市長も出場している  
                  ことが多いのですけれども、今回に関してはいかがでしょうか。
- 市長            現段階では正式には決めておりませんが、基本的には市民の皆さんと政  
                  令市20周年という年でもあるので、一緒に走らせていただいて、60歳  
                  になって初めての大会ですので、完走をしたいと思っております。
- 東京新聞        ありがとうございました。  
                  ほかの方よろしくをお願いします。
- 朝日新聞        朝日新聞です。よろしく願いいたします。  
                  これは、さいたま市が主催ということで間違いないでしょうか。
- 事務局           さいたま市と一般社団法人さいたまスポーツコミッションの主催です。

- 朝日新聞 共催ということですね、その2者の共催。
- 事務局 2者の主催。
- 朝日新聞 続いて、運営費についてなのですが、運営費についても19年と同様規模。
- 事務局 運営費につきましては、まだ大会の概要全体が固まっていないところもあり、流動的ですが、コースやメイン会場がさいたま国際マラソンと同じということから考えると、代表選考レースがありませんので、そういったところを差し引いて同程度の金額となると考えています。
- 朝日新聞 19年って代表選考レースは兼ねていたのでしたっけ。
- 事務局 兼ねていました。
- 朝日新聞 今代表選考レースがないことから、同規模というのって。
- 事務局 大規模選考レースの部分を差し引いた形で、それ以外の市民マラソンの部分については同程度の規模になるということで考えています。
- 朝日新聞 19年の総運営費って幾らでしたっけ。
- 事務局 後ほどお答えさせていただきます。
- 朝日新聞 市長にお尋ねいたします。  
先ほど幹事社からの質問でもありましたが、19年をもってやめた、終わった理由の一つに、コース設定の問題があったと思います。これは、ほぼ変えないということですが、トップランナーを呼んだり、さいたま市のマラソンとしてしっかり位置づけるためにはトップランナーを呼びたいなと素人考えでは思うんですが、ここはいかがでしょうか。
- 市長 もちろんトップランナーに参加していただきたいという気持ちは十分ありますが、ただ今回はこれまでと違って、エリートの代表選考レースを兼ねたものではありません。もちろんマラソン選手にとってタイムというのも一つの大きな目標で参加されると思いますが、またタイムのみならず、それとはまた違ったいろんな楽しさや参加する意義を感じていただけるような大会にしていくことを目指していきたいと考えています。
- 朝日新聞 ありがとうございます。コンセプトについてお尋ねします。  
2013年から19年ぐらいにかけては、ランニングブームもあって、マラソン大会の新設が相次いでおりました。私も別の県で報道に携わったことがあります。ただ、今は人口の飽和状態もあって、大会がパイの奪い合いになっている傾向もございます。そんな中で、やはりさいたま市はこうだと



いうコンセプトの打ち出しが非常に大事だと思います。この点、さいたま市はこうだから来てくれ、こうだからいいというところを改めて主催者の立場からお願いします。

○ 市長 基本は6月にその辺も含めて発表させていただきたいと思っております。私自身のことではありますと、やはり走る楽しさを知っていただいたり、これまでも女子のエリートの大会ということもあって、女子の選手をはじめ、初めてマラソンに参加される方が結構さいたま市から出ていただいていたように思います。ですから、そういった初めて出てくださいる方を応援できるような大会になればいいなという思いはあります。コンセプトについては、次の6月のときに明確に出させていただければと思います。

○ 朝日新聞 付け加えて恐縮ですが、フルマラソン大会、トップランナーを軸に大会として頑張るのか、それとも市民ランナーの満足度を充実させるために頑張るのか、どちらかというと後者のスタンスということによろしいでしょうか。

○ 市長 基本的には後者が中心になると思っています。ただ、もちろんトップランナーの皆さんにも走っていただきたいと思っておりますが、メインはやはりこれまでのように代表選考レースとか、エリートの皆さんを中心としたレースではなくなりますので、より市民の皆さん、あるいは愛好者の皆さんに愛される大会にしていきたいという思いです。

○ 読売新聞 読売新聞です。

まず、フルマラソンの名称は、もし現時点で考えているものとか、決まったものがありましたら教えていただけますか。

○ 市長 まだ決まっていません。これも次回までお待ちいただきたいと思います。

○ 読売新聞 あとそれから、今回4年ぶりに復活したということですがけれども、今のタイミングになった理由を教えてください。

○ 市長 まず、今のタイミングになった理由ですが、マラソンをやられている方は、年間を通してご自身が走られるマラソン大会を決められて、それに向けて練習されるという傾向が強くありますので、早めにお知らせをさせていただいて、選択肢の一つに加えていただこうということで、日にちと、やるということについてはお知らせしました。

また、これまで2019年まで参加をしてくださった多くのランナーの皆様もいらっしゃいますので、そういった皆様も含めて早くお伝えをしたいと

いうことから、今日お話をしました。

- 読売新聞      あとそれと、ランニングイベント自体が今年度復活した理由を教えてください。
- 市長          さいたま国際マラソンが終了した後も、議会や、市民の皆さんからも大会の復活や、フルマラソン大会の継続というような声もこれまでいただきました。私たちとしては、さいたま国際マラソンのこれまでの経験も踏まえて、どういう大会にしていくかを検討し、模索し、そうした中である程度一定の期間をかけて準備をして大会を実施しようということから、今年度になりました。ちょうど政令指定都市になって20周年という年にもなりましたので、今回ということです。
- 読売新聞      そうしますと、政令市20周年の例えば記念大会として今年に合わせてやるとか、あるいは新型コロナウイルスが5類への移行というのがありますけれども、そういうことを踏まえてということではないということですか、それとは別ですか。
- 市長          もちろん新型コロナの感染状況ということも全く影響がなかったわけではありませんが、大会をやる際にはコロナの影響がなく、しかも十分な準備と、それからやり方、方法、あるいは周知などもしっかり行った上で実施をしたいという思いでしたので、今回になったということです。
- 読売新聞      それから、今回発表されたスーパーアリーナを発着して国際マラソンのコースというのは、例えば親子とかも大会に参加できるようなというのがさつきありましたけれども、これもフルマラソンの部ということでよろしいんですか。
- 市長          親子でやるのは、多分フルマラソンよりもう少し短い距離かと思います。これまでも国際マラソンやランフェスなどでも、例えば車椅子マラソンはいわゆる競技として車椅子でマラソンをやられている方ではなくて、車椅子で生活をされる方が走るということ、風を切りながら走るということの楽しさを知っていただくということ、あと親子でももちろん手をつないでいるわけではありませんが、一緒に走るということで親子の絆を深めていただく、あるいはチームランもやりましたけれども、そういう走る楽しさをみんなで分かち合えるような、これまでやってきた経験なども踏まえて、そういった要素なども入れられればということで今検討しています。

- 読売新聞      最後に、確認ですけれども、ランピットとかはないんですよね。これは、さいたまスーパーアリーナの中で着替えをしてもらって、荷物の預かりとかもしていただくという想定でよろしいですか。
- 市 長      はい、そうです。
- 読売新聞      あと、コースについても1点だけ。これは、日本陸連のほうはもう認定コースということになるのでしょうか。
- 事務局      日本陸連のコースの認定については、これからの申請になりますので、私どもとしては認定のコースにしていきたいという思いです。
- 毎日新聞      毎日新聞です。よろしくお願ひします。  
陸連の認定を目指すということで、認定されそうな可能性ってどれほどあるんですか。
- 事務局      可能性というのは、申請をして陸連さんのご意見等をお聞きしないと何とも言えないところですが、さいたま国際マラソンのときには認定をいただいていたコースでもあるので、私どもとしては認定をいただけるように努力をしてみたいと考えております。
- 毎日新聞      あと、4年前は陸連さんと一緒にやっていたから、それは認定はそうなると思うんですけれども、今後スポンサーのほうは、今までは市が負担金という形で、スポンサー等は集めていなかったと思うんですが、今回はスポンサーは市が集めるということですか。
- 事務局      市とさいたまスポーツコミッションでスポンサーの獲得に努めてまいりたいと考えております。
- 毎日新聞      あと、4年前、全国一高い負担金2億5,000万円だったと思うんですけれども、今回の市の予算的には億単位になるのか。
- 事務局      市の予算は、支出で3億という形で計上しています。
- 毎日新聞      あと、市議会のほうではハーフでもいいのではないかとか、そういう意見があったと思うんですが、やっぱりフルマラソンにしたという市長の思いがありましたらお願いします。
- 市 長      これまでも議会等で議論があり、フルマラソンがいいという声もあり、ハーフで十分だという声もある中で、私たちとしてはさいたま国際マラソンをやった際に、やはりハーフマラソンでは味わえないフルマラソンならではの大会の価値や、取組が必要だと思ひました。最終的にはフルマラソンをもう

一回やりましょと決断しました。

- 事務局      先ほどお答えを保留にしておりました2019年のさいたま国際マラソンの総事業費ですが、約7億3,000万円ほどの事業費がかかっています。今年新たに、先ほど代表選考レースがなくなったということで、市民のための市民マラソンとしてフルマラソンを開催していく形で事業費を検討してまいりたいと考えています。
- 朝日新聞      先ほどの数字ありがとうございます。朝日新聞です。  
7億3,000万円のうちの、当時2億5,000万の負担金だったという理解でよろしいですね。
- 事務局      はい、そのとおりです。
- 朝日新聞      今回、今年度予算は3億ついているのですけれども、これって全てこれに充てるということではない、それとも大部分がこのイベントにということでしょうか。
- 事務局      支出の3億としては、フルマラソンだけではなく、全体のランニングイベントの開催の経費として使用してまいりたいと考えております。
- 朝日新聞      当時の2億5,000万は、周辺のイベントを含めたお金ということで、7億3,000万は周辺のイベントも含めたもので、それに市も2億5,000万円出していた、そういうことでいいですか。
- 事務局      はい。
- 毎日新聞      当時2億5,000万でも高過ぎるのではないかって市議さんのほうからいろいろあったと思うんですけれども、それがさらに増えて3億円になったらどうなるのだろうと思っているのですけれども。
- 事務局      予算につきましては、それ以外の収入として特定財源を予定しておりますので、そういった特定財源を充てることを考えると、2億程度市の負担になるかと考えています。ですので、実質的には市の直接負担する金額は減額になると考えています。
- 朝日新聞      先ほど特定財源を充てるというのは、関連イベントでの収入という意味か、それとも何か別の歳出からという意味でおっしゃっていますか、教えてください。
- 事務局      私どものほうで市に企業版のふるさと納税などを募ってまいりたいと考えています。

**幹事社質問：1. 新型コロナが5類に移行して医療機関や保健所での対応 2. 現在の保健所の人員体制**

○ 東京新聞       では、ないようなので、それでは幹事社として代表質問させていただきます。

                  新型コロナの感染症法上の分類が5類に移行して10日ほどたちます。現在のところ市内の医療機関や保健所等での対応について特異な事案や課題などがありましたら教えてください。

                  また、前回の会見で保健所の人員などの体制変更は最小限にとどめながら、段階的に様子を見て対応すると説明していましたが、現在の状況はいかがでしょうか。

○ 市 長       それでは、幹事社の質問にお答えします。

                  まず、医療機関や保健所等での対応です。5月8日の5類移行から10日を経過したところですが、新型コロナの感染が疑われる患者の外来検査や入院が必要な患者の受入れについて、本市においても一般的な外来診療や医療機関間の連携により行われており、特段の支障は生じていないと担当課から報告を受けております。

                  また、保健所におきましては、感染者の発生届の受付、また健康観察などの業務は終了しましたが、市内の高齢者施設や障害者施設への感染対策研修、また入所者等の集団感染が発生した場合の周囲のものへ行う行政検査などの対応は、従前と同様に実施することとしています。

                  一般市民からの新型コロナに関する相談は、本県では先月下旬から埼玉県コロナ総合相談センターが一元的に受け付ける体制となっています。市の広報等でもこれらの連絡先を案内していますが、医療機関や5類移行前に保健所で対応していた方から保健所に問合せがあった場合にも対応ができるよう、当面の間は必要な体制を維持してまいります。

                  なお、救急搬送体制については、5類移行後もコロナ疑い事案を含めて、救急搬送困難事案はおおむね横ばいで推移していますが、県の入院調整本部が廃止になった影響は、現時点ではないものと思われれます。今後も国や県、医療機関等の関係各所と連携をしながら、5類移行後に対応すべき課題等について必要な情報の収集、共有に努めていきます。

                  続きまして、保健所の体制についてです。5類移行後の保健所の人員体

制の変更につきましては、実際の業務状況などを見極めつつ、段階的に対応していくものと考えています。

直近の5月8日の人事異動では、保健所からの異動者数は4名でして、この内訳は、疾病対策課が3名、新型コロナウイルスワクチン対策室が1名異動しています。減になっています。

今後も保健所の人員体制の見直しにつきましては、5類移行後の実際の業務状況などを見極めながら取り組んでいく所存です。

以上です。

### 幹事社質問に関する質問

- 東京新聞 代表の質問の説明に関して、質問がある方は質問してください。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

5類移行後、患者数については定点で発表されていますけれども、さいたま市の現状についてはどう見ていて、感染状況は市としてどういうふうに見ているかを教えてください。
- 市長 5月14日までの1週間の定点当たりの報告数は1,444となっています。43件ある定点把握医療機関からの総報告者数は62名となっています。5類移行に伴い、新型コロナ患者を診断した医療機関からの発生届や全数報告の仕組みは終了し、5月8日以降は定点医療機関からの報告による感染動向の把握に移行しています。

昨日、5類移行後初めて、定点報告の結果をインフルエンザ等、他の感染症の発生動向と併せて、さいたま市感染症発生動向調査において掲載させていただきました。今後経年的な推移を把握していくこととなります。5月8日までの傾向と単純に評価をするのは難しいと考えていますが、大きな増加にはなっていないのではないかと考えています。
- 埼玉新聞 5類移行後、市民の方から何か不安とか、そういった相談というのが増えているとか、そういうのはあるのでしょうか。
- 市長 一部そういった相談も来ていますが、随時対応し、ご理解をいただいています。具体的なご相談については、先ほど申し上げましたとおり、埼玉県の相談窓口のほうにご案内をしているといます。
- 埼玉新聞 保健所疾病対策課3人、コロナ対策課1人減ったということですがけれども、いずれも全く違う部署に異動されたということですか。

- 市長            そうです。
- 埼玉新聞        例えばどちらに異動したか。
- 市長            後ほどそれは具体的にお答えします。
- 東京新聞        では、幹事社質問以外、そのほか質問がある方は質問をお願いします。

### その他：桜環境センターで発生した一部機能停止について

- 時事通信        時事通信です。

4月10日に桜環境センターで発生した火災の関連でお伺いします。出火の原因はリチウムイオン電池と見られていますが、この火災を受けて、リチウムイオン電池の回収方法など改めて市民にアナウンスすることや、回収方法の変更は考えておりますでしょうか。また、火災の再発防止策、何か考えられていましたら教えてください。
- 市長            ご質問にお答えしたいと思います。

今回の発火の原因と思われる充電式電池の火災は、今全国的に多発していきまして、他市では大変大きな被害を受けた事例も見受けられます。本市でも再びこのような事態が起きないよう、施設側の監視体制を強化してまいりたいと考えています。

また、モバイルバッテリーなどの充電式電池は「電池回収ボックス」に、また電池シェーバー及び加熱式たばこなど、電池が取り外せない製品は「小型家電回収ボックス」に出していただけるように、市民の皆様に対して改めてルールどおりのごみ出しをしていただくようご理解とご協力をお願いしたい、また呼びかけていきたいと考えています。

本市としても、ホームページ等でごみの出し方をお知らせをしていきたいと考えておりますし、また市民の皆様向けにごみ分別アプリ「さいちゃんアプリ」をご活用いただくなど、ごみ出しのルールについてご確認いただくよう重ねてお願いを申し上げます。
- 時事通信        今のご発言についてなのですが、施設の監視体制を強化したいということですが、具体的に火災から1か月ほどたっていますが、何か変更された点などあれば教えてください。
- 市長            今回の事態を受けまして、火災検知機と消火散水ノズルを増設する設備改修を行いました。また、監視体制についても、検知器がない場所についても確認するように変更したところです。

### その他：ファミリーシップ制度について

- 埼玉新聞      埼玉新聞です。  
ファミリーシップ制度についてお聞きします。子どもに対する年1回の意味確認については、改正する方向で検討されているということですが、どのような理由で改正するのか教えてください。
- 市 長      このファミリーシップ制度については、当事者からのご意見などもこれまで頂戴をしたりしまして、改めてご意向の調査や専門家からの意見聴取というようなプロセスを経ながら、こういった形が適切か、使い勝手がよく、それぞれの背景に配慮した形になるかということを含めて検討しています。今後それらの調査結果、あるいは有識者からの様々のご意見などを踏まえて対応していきます。
- 埼玉新聞      改正の方向というふうには聞いているのですが、それは違うということですか。
- 市 長      改正の方向をやるに当たって、アンケート調査や、専門家の御意見も踏まえた形で対応していくということです。変更していくということです。
- 埼玉新聞      そうしますと、アンケート調査をされていますけれども、当事者のみの確認という改正の内容でよろしいということですか。
- 市 長      最終的にアンケート結果などを踏まえて検討している最中ということです。
- 埼玉新聞      一般的に多いのは、生まれたばかりの実子なんですけれども、そうすると子どもの意思確認というのは難しいと思うのですが、その辺はどう考えていらっしゃるのですか。
- 事務局      今ご質問いただいた生まれたばかりの乳児に対する意思確認はどのようにするのですが、あくまでも届出のときにパートナーのお二人にお子さんの意思を尊重することが大切とご確認いただく。意思を確認したという事実の確認ではなくて、そのようなことをするのが今後大切ということを理解したということを確認していただきます。
- 埼玉新聞      そうしますと、前回よりもその内容も変えるということによろしいですか。
- 事務局      今あくまでも検討中ですが、その内容、方向で考えております。
- 埼玉新聞      見通しというのはありますか。



○ 市長 なるべく早くと思っておりますが、まだ今アンケートを集計している最中ですので、現状としては、いつ頃ということはまだ申し上げられませんが、なるべく早く対応したいと考えております。

○ 埼玉新聞 なるべく早く改正する対応ということでよろしいですか。

○ 市長 そうですね。それらを踏まえて、変える方向で今検討しています。

### その他：英語教育実施状況調査の公表をうけて

○ 読売新聞 読売新聞です。

英語教育実施状況調査、文部科学省による調査がありました。そこで、さいたま市は福井県と並んで突出して高いという結果が出ておりますけれども、市長の受け止めをお伺いできますでしょうか。

○ 市長 昨日文部科学省から令和4年度の英語教育実施状況調査の結果が公表されました。さいたま市の中学校3年生の英語力、これは英検3級相当以上という目標を達成した割合ですが、平成30年度から4回連続で全国第1位になりました。全国平均が49.2%に対して本市では86.6%と極めて高い英語力という結果に、大変うれしく思っております。この結果は、本市独自の英語教育でありますグローバル・スタディの成果が大きく表れたものであり、またこれに先行して小学校1年生からの英語教育を実施していることなどの成果が出ていると思っております。またあわせて、子どもたちも大変頑張ってくれて、また関係する教職員の皆さんも大変力を注いでいただいたと思います。教育都市としてのさいたま市を意識していただけるものになったと思いますし、学ぶならさいたま市と多くの皆さんに感じてもらえたのではと思っています。

以上です。

### その他：新庁舎整備について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

市庁舎の基本計画の案が出ましたけれども、分棟とか展望台とかあったのですが、分棟のほうが優位というふうに紙面には載っているのですが、この辺の市長の考え方を教えてください。

○ 市長 民間企業との事業の成立の容易性を考えますと、管理運営の合意形成であるとか、災害対応に懸念がある、いわゆる高層にするという形よりも、分棟のほうが、コスト面や運用面においても優位ではないかと考えている

ところです。また、ふさわしい民間の機能については、まだどういったものがいいかということについては具体的な業種を申し上げることはできませんが、市民広場と親和性が高く、さいたま新都心のまちと調和して、にぎわいを創出できるような機能が入ることを期待しているところです。

○ 埼玉新聞 今のところバスターミナルの面積からして、そんなに広く感じないんですけれども、新都心公園とか防災広場に拡大するというのも検討されているんですか。道路を挟んでいますけれども。

○ 市長 現状としては、敷地ということで考えております。ただ、ご指摘のように、周辺には防災に対応できるような公園もあります。周辺は、公園に囲まれているので、この新しい市庁舎は、広域的な防災機能の一つの役割を担うことが市民の皆さんからも相当期待をされています。周囲とのつながりや環境などをうまく活用した配置や建物の建設となると思います。

○ 埼玉新聞 まだ決まっていないのでしょうかけれども、防災広場に分棟するというのも考えられるということですか。

○ 市長 防災広場というのは、道路を挟んだ前のところ。そのことは考えていません。敷地内ということですよ。

### その他：浦和レッズACL優勝をうけて

○ 埼玉新聞 もう一点、浦和レッズがACLで優勝しましたけれども、その感想と、何か表彰とかされるのか教えていただけますか。

○ 市長 まず、ACLでの優勝は6年ぶり3回目の優勝ということで、私自身も当日試合観戦をしました。久しぶりに埼玉スタジアム2002がほぼいっぱいになって、これまで新型コロナウイルス感染症の影響で声を出したりすることも制限をしながらの応援でしたが、このACLの決勝では、久しぶりに物すごいファン、サポーターの皆さんの応援の下に試合が行われ、まさに選手の皆さん、それから監督、コーチ、そしてスタッフの皆さんと同時に、ファン、サポーター、そしてみんなが力を合わせて得られた優勝だったと実感しています。これまでもサッカーのまちとしていろいろな取組をしてきましたので、改めて浦和レッズの優勝に感謝と、また誇りに思っているところです。また、今後の表彰については、今検討中ですが、何らかの表彰をさせていただきたいと考えています。それは後ほどお知らせします。

- 東京新聞      ほかいかがでしょうか。  
では、ないようですので、どうもありがとうございました。
- 進 行      先ほどの保健所の体制について回答しますので、お願いします。
- 事務局      先ほど埼玉新聞さんから質問がありました5月8日付で保健所から転出した4名の異動先ですが、福祉局が2名、子ども未来局が1名、南区役所が1名となっています。
- 進 行      よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了します。  
  
なお、次回の開催ですが、6月1日木曜日午後2時からの開催を予定しています。本日はありがとうございました。

午後 2時26分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。